

科目担当者氏名		科目担当者連絡先(メールアドレス)	
(ふりがな)	いちのかわ・やすたか 市野川容孝		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	いちのかわ・やすたか 市野川容孝	東京大学大学院総合文化研究科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
国際社会科学特殊研究Ⅲ	TOK _X -040101-0	6名	

I. 調査実習に関するコメント	
<p>学生が果たした役割や実習全般に対する感想など： 本調査では、グループホームに関する資料集の作成、インタビュー調査の対象選定、実際のインタビュー調査等、全般にわたって、学生たちが主体的に活動した。また、高齢者、児童、障害をもつ人びと、という3つの領域を横断しながら、グループホームの現状について、総合的な現状把握ができた点に、本調査の特徴があると考えられる。</p>	
II. 調査の企画・設計(デザイン)	
<p>1. 調査のテーマ/領域： 「グループホームの諸相(東京都内を中心に)」。(1) 高齢者のグループホーム、(2) 子どものグループホーム、(3) 障害をもつ人びとのグループホーム。</p> <p>2. 調査の内容/概要： 近年、日本で急速に広まった「グループホーム」について、まず関連文献を収集・整理して、資料集を作成。その上で、東京都内の高齢者グループホーム(計3つ)、児童グループホーム(計4つ)、障害をもつ人のグループホーム(計3つ)を訪問し、その運営者にインタビュー調査をおこなった。</p> <p>3. 調査の範囲/対象(量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)： インタビューの対象選定にあたっては、上記の「資料集」をもとに、(1) 規模、(2) 開設時期、(3) 運営形態、等を指標に、グループホームのおおまかな類型化をおこない、各々を代表していると思われるものを選んだ。</p> <p>4. 主な調査項目： 各グループホームの沿革、スタッフの概要、利用者およびその家族の生活状況、運営上の問題点、等。</p>	
III. データ収集の方法と結果	
<p>5. データ収集(現地調査)の方法： 非構造的および半構造的なインタビュー調査。</p> <p>6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数： 2004年10月から2005年1月まで。東京都内各所。計12名(うち本授業履修者は6名)。</p> <p>7. 収集したデータの量と質への評価(量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)： サンプル数は決して多くないが、類型化を試みながら対象を選定したので、東京都内のグループホームの成り立ちと実態を、幅広く総合的に明らかにすることができた。</p>	
IV. データ分析の方法と結果	
<p>8. データ分析/解釈の方法： インタビュー内容を全部もしくは一部を、インタビュー者のチェックを受けながら文字化し、加えて他のドキュメントや統計データ等の資料を交えて分析した。</p> <p>9. 調査の成果(調査から得られた主な知見など)： 詳細は下記報告書を参照されたいが、近年、特に高齢者福祉の領域で注目をあびている「グループホーム」は、その先駆形態が実は児童福祉にあること、また障害者福祉の場合は、それが自立生活運動と強い関連があることが明らかとなった。</p> <p>10. 報告書刊行の予定と概要： 東京大学大学院総合文化研究科/教養学部・相関社会科学研究室『グループホームの諸相——東京都内を中心に』(2006年5月、全168頁)として刊行した。</p>	

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。